

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(1/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
みえライフイノベーション総合特区 (三重県)	4.3	4.9 進捗度 ・統合型医療情報データベースの活用 100% ・ヘルスケア分野の製品・サービスの増加 108% ・ヘルスケア産業の振興 138% ・ヘルスケア分野企業(第2創業含む)及び研究機関の立地件数(累計) 126%	3.9 規制の特例等 ・健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告の実施 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 等 地域独自の取組 ・医療情報利活用推進事業費補助金 ・みえ経営向上支援資金 等	4.2	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大のなかにあっても、統合型医療情報データベースの活用促進やMieLIPによる研究開発支援活動の活性化の目標をともに達成したことが評価できる。</p> <p>・「医薬品の範囲に関する基準」に規定する「医薬品的な形状の解釈」の緩和への貢献を評価したい。</p> <p>・統合型医療情報データベースが地域の企業によって活用される事例により、MieLIPとデータベースの事業連携が深まるとよりよいと思われる。</p> <p>・データベースが開発され今後製薬企業等との共同研究計画により実績をあげることが期待される。認知症ケアなどのための福祉機器の開発の具体化を期待したい。</p> <p>・達成された数値目標における事業の持続可能性および発展性について、何らかの形でフィードバックされることを期待する。</p> <p>・令和2年度のみならず、事業開始時から高い目標達成度を維持しており、取組の成果がうかがえる。その一方で当初の目標設定の妥当性、および、事業途中における目標値上方修正などについては、再考の余地が残される。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野(2/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ふじのくに先端医療総合特区 (静岡県)	4.1	4.0 進捗度 ・がん診断装置・診断薬の開発 100% ・その他医療関連製品の開発 150% ・医療機器生産金額(県内) 48% ・製造業等の企業立地件数 83%	4.0 規制の特例等 ・国内品質業務運営責任者の資格要件について等 財政支援等 ・医療機器等開発・参入支援事業 総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・沼津高等専攻科「医療福祉機器開発工学コース」の開設等	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹施設である静岡がんセンターのパフォーマンスを活かし、初期に設定された複数の目標を高率に達成していると考えられる。 ・様々な規模の企業が集積し、基礎研究から薬事承認まで開発プロセス全体をサポートする体制が構築された結果、医療関連製品の開発が進んでいることが評価できる。 ・日本人がんゲノムデータベースについても、海外に依存する部分も大きいがん遺伝子パネル検査の結果評価を国内で完結できる点で評価できる。 ・2021年度開学した社会健康医学大学院大学との連携により、技術開発の公衆衛生面での影響の評価なども今後期待できるのではないかと。 ・規制特例の参入要件緩和や認定講習による地道な効果が継続されているとともに、新たにゲノム解析の領域での飛躍も期待できる。 ・規制の特例措置を活用した医療健康分野への新規参入促進および当該分野の人材育成の取組には、両者の間に好循環が生まれており、今後の更なる成果が期待できる。 ・認定看護師教育プログラムの移動、F-metなどの取組は評価すべきである。地域独自の取組のうち財政支援措置、税制支援措置なども数多く活用されている。 ・認定看護師教育課程をファルマバレーセンターにおいたことによる具体的な効果はどのようなものか、また、静岡がんセンターでの看取りの知見がどのように「健康長寿・自立支援プロジェクト」に活かされているかわかりにくい。今後は介護領域の産業分野への参入も期待したい。 ・すでに国内保険適用を得ているパネルが複数存在し、全ゲノム解析も研究レベルではあるものの開始される中で、新たに遺伝子パネルの保険収載を目指した開発の必要性について、研究者側の意見をお聞きたい。 ・評価書内に散見される世界展開については、十分な実績には至っていないと思われる。本事業の優先項目ではないかもしれないが、計画書・評価書内の「世界展開」について研究者側の将来展望をお聞きたい。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(3/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
先導的な地域医療の活性化(ライフイノベーション)総合特区(徳島県)	4.0	4.5 進捗度 ・医師不足対策及び在宅医療の推進 109% ・糖尿病対策の推進 85%	3.5 規制の特例等 ・「総合メディカルゾーン本部」内を単一の病院とみなした制度・法令上の取扱い等 財政支援等 ・寄附講座設置事業 ・医師修学資金貸与事業等 地域独自の取組 ・とくしま経済飛躍ファンドによる研究開発支援等	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 徳島県の医療を担う人材育成と糖尿病関連医療製品の開発が着実に進んでいることは評価できる。 コロナ禍の状況にありながら糖尿病対策を推進されているのは評価に値する。 地域独自の取組や規制の特例措置を活用した取組を通じて、医療従事者の養成・確保、遠隔医療の推進、患者アクセスの改善など、医療の偏在の解消に向け、多方面から着実に進めている点が高く評価できる。 医療人材育成と糖尿病対策という二つの事業の連携が行われているかどうかを示すために、徳島県特有の健康医療課題の解決に注力する医師(地域医療や糖尿病医療など)をどれだけ育成できているかについて評価することも検討いただきたい。 アウトカム創出への総合的な取組がみられる点に注目しつつ、その指標化への挑戦にこれまで同様に期待したい。 「糖尿病克服モデルを全国に発信し、日本はもとより世界中の糖尿病の克服に還元」に向けて、具体的な活動モデルが可視化されると良いと思う。特定行為研修修了者の活動内容が見えない。県民の歩行数を指標化する試みは良いが、実現してほしい。イベント参加は1日のみなので成果は限られるだろう。今後は、透析移行者数など具体的なアウトカム指標を用いた目的の遂行を期待したい。 地域医療の充実が喫緊の課題であることは理解する一方で、医師の能力・スキルアップの側面からは、専門的施設での研修(国内外留学など)も重要になってくると思われる。 生活習慣病ともいえる糖尿病への取組には持続可能性が必要と思われ、本事業に参加された受講者のその後の経過について包括的にフォローアップする体制の構築とアウトカムの共有が望まれる。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(4/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区(AAAシティおかやま)(岡山市)	4.0	3.7	3.9	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護機器を独自に貸与することで機器の普及や評価を行うモデルを継続していることは評価できる。 ・令和2年度での利用者の状態像改善について評価し、上位事業所に奨励金等のインセンティブを付与した取り組みは興味深い。 ・超高齢社会において持続可能な社会経済モデルの構築を目指す意欲的な取り組みである。評価指標が具体的で実効性があるだけに達成が難しく、評価が厳しくなるが、取組自体を評価すべきと考えた。このような指標は変えずに取組むほうが、評価は低く見えるかもしれないが、実効性のある活動を可能にすると思われ、この形での継続を期待したい。 ・規制の特例措置を活用した取組や地域独自の取組によって、高齢者の在宅生活支援、在宅高齢者のQOL向上、介護従事者の負担軽減をおおむね順調に進めている点が高く評価できる。これらの事業成果間の好循環も期待したい。 ・市民負担の抑制への着目は達成が難しいなかで高い評価に値すると思われる。その一方で、「在宅で安心して過ごすことができる包括ケア」「いつまでも生きがいを持って暮らしていける・・・」などは、数値的な達成度の他に、表題の内容を、どの程度達成しているかについての評価尺度に関する説明が望まれる。具体的には(1)QOLの向上はどのように評価するのか？(2)生きがいの評価はどのようにするのか？などである。いずれも進捗度のみで評価を行うのは非常に難しい課題と思われる。 ・参加事業所間でのノウハウの共有が進むための方法の試行的な取り組みを期待したい。 ・インセンティブ事業に参加する事業所数が伸び悩んでいることについて、要因が何かを分析する必要があるのではないか。地域特性の他にも、評価項目の妥当性、評価後のフォローアップ、インセンティブ導入に対する従事者の反応などが考えられる。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(5/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
かがわ医療福祉総合特区(香川県)	4.0	4.5 進捗度 ・へき地薬局研修参加者数 105% ・複合型サービス施設 80% ・島しょ部における地域包括ケア病床の確保 210%	3.5 規制の特例等 ・地域包括ケア入院管理料1の施設基準の緩和等 地域独自の取組 ・複合型福祉サービス充実事業	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・島しょ地域での在宅医療・ケアの包括的な支援の取組を、コロナ禍の影響を受けながらも着実に実施している点を評価しておきたい。事業の持続性に対応する報酬(診療・介護)の改善を視野に入れている点に注目しておきたい。 ・種々の制約がある中で、地域医療の発展を目指した取組に対する目標が達成されていることが理解できる。 ・特区の規制緩和を活用して、小豆医療圏における地域包括ケア病床を確保し、また患者の在宅復帰率も上昇している点が、島しょ部の地域住民に持続性のある安定した地域医療を提供する取組として評価できる。 ・地域包括ケア病床が確保された結果、患者の在宅復帰率が増加していることは評価できる。今後、医療情報ネットワークシステムの活用等により、薬局と医療機関等の連携により質の高い健康サービスを提供することが期待される。 ・目標に対する達成度が高いことは評価される反面、当初の目標値は妥当であったか否かの検証の余地が残される。 ・島しょ部ならではの苦労があるかと思われるが、早期に完成している印象で、その後の進展がわかりにくい。在宅看取り率、要介護認定率などは全国的に比較が可能なので、そのようなアウトカム指標も含めて現状の課題とその解決の程度が吟味できると更に特区としての発展が期待できるのではないか。訪問看護は島しょ部含め全国に普及しており、特区としてのオーリーブナースの活動の独自性がわかりにくい。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(6/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	4.0	4.1 進捗度 ・生活支援ロボットの導入施設数 167% ・実証実験等の実施件数 140% ・特区発ロボットの商品化状況 100% 等	3.7 規制の特例等 ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法)等 地域独自の取組 ・「セレクト神奈川NEXT」等による企業誘致の促進等	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット事業への参入を促すための実証実験や、実証実験フィールドの整備、企業誘致、開発支援、一般住民の認知度上昇のための広報活動など多様な促進事業を有機的に展開し、ロボット開発の実績を着実に進めていく点は評価できる。 ・ロボットが果たす役割の重要性はコロナ後の生活や保健医療に今後高まることは確実視されるため、新しいニーズに対応した開発支援と実証研究、実用化を積極的に進めて頂きたい。 ・ロボットリテラシー・ロボット経営コンサルタント等新たな視点での多様な挑戦に期待したい。 ・規制の特例措置や地域独自の取組を通じて、生活支援ロボットの実用化・普及を着実に進めている点が高く評価できる。ロボット導入後の使用者から製造者へのフィードバックも更なる実用化・普及を後押しする取組として評価できる。 ・今後はロボット活用による具体的なアウトカムの変化を評価してゆくといだろう。 ・生活支援ロボットについては、導入件数のみならず導入ロボットの内訳に関する情報共有も期待したい。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(7/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
東九州メディカルバレー構想特区(大分県、宮崎県)	3.9	4.2 進捗度 ・医療関連機器の市場化件数 208% ・新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数 125% ・新規輸出する医療関連機器を製造する企業 50% ・新規海外医療技術人材育成数 539%	3.5 規制の特例等 ・非治験臨床性能評価制度適用の拡大 財政支援等 ・医療関連機器産業参入促進事業 地域独自の取組 ・大分県医療機器産業参入加速化事業 ・宮崎県産学官共同研究開発補助金 等	4.0	・地域独自の財政金融支援を2県で行い、医療機器開発への参入を促進していることは評価できる。 ・コロナ禍であっても、タイでの医療人材育成を着実に進めていることは評価できる。 ・医療関連機器産業の集積については、これまでの取組で得られた連携体制やノウハウを生かし着実に進んでいることが評価できる。 ・アジア等への医療機器の海外展開が意欲的に実施されている。「見守りシステム」等、新たな取組が実際の展開につながることを期待したい。 ・新規海外医療技術人材育成については、目標値に対する進捗度がきわめて良好と言えるが、進捗度の数値を見ると、初期設定値が低すぎたとは考えられないか。どの時点で、何を持って人材育成を達成したのかということが共有されるのが望ましい。 ・医療機器の輸出については、海外制度やニーズ調査について官学により積極的なサポートが必要だと思われる。 ・市場化件数の目標を着実に達成している背景に、地元の中小企業への支援による実績があると考えられるので、その「見える化」の工夫がなされることを希望する。 ・海外医療技術人材育成に関しては、現地活動や海外人材交流の中止によりオンライン実施のみとなったと思われるため、人数とともに質の評価も検討する必要があるのではないかと。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(8/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
群馬がん治療技術地域活性化総合特区(群馬県)	3.8	4.3 進捗度 ・医療・ヘルスケア産業振興 189% ・事業化人材の育成 164% ・医療系人材の育成 161% 等	3.3 規制の特例等 ・高精度重粒子線がん治療技術開発事業 財政支援等 ・戦略的基盤技術高度化支援事業 ・総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・医療機器・介護機器等事業化支援補助金 ・医療・ヘルスケア関連事業化支援補助金 等	3.8	<p>・補助金、コンサルティング、情報共有サイトの運営などにより、臨床ニーズを汲んだ医療機器開発のプラットフォーム形成に尽力し、成果を挙げていることは評価できる。</p> <p>・財政的支援の増額をはじめ、多様な人材育成の事業展開がなされたこともあって、新規雇用者創出数にも成果が生み出されている点が評価される。</p> <p>・がん医療にかかる「医療産業拠点」の形成のための総合的な取組である。財政・税制・金融支援の活用を進める具体的な工夫があるとよいと思われる。</p> <p>・評価指標(1)から(4)の全ての指標において、前年度と同程度またはそれ以上の成果をあげている点が高く評価できる。数値目標(1)「治療実施症例数」は、目標達成に向けた進展がみられた。「医療産業拠点」の形成に向け、継続的な成果を期待したい。</p> <p>・当初の事業である重粒子線治療やがん医療との連携が今後促進されることに期待したい。</p> <p>・数値目標において疑問が残される課題と思われる。数値目標に対する高めの達成度として報告されているが、そもそもの目標設定値の妥当性について議論が必要と思われる。</p> <p>・重粒子線治療の実施目標値が低すぎる。令和2年度実績2例については、この2例に対する自己評価として特区及び本事業の実施主体の意見を聞いてみたい。計画書では世界最先端とアピールしておきながら、年間2例では説明がつかないと思われる。</p> <p>・医療系人材についても、計画書には放射線治療に携わる人材不足が説明されているが、人材育成人数としては十分とはいえない。特に放射線腫瘍医、医学物理士の育成については方向性見直しが必要と思われる。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(9/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
柏の葉キャンパス 「公民学連携による自律した都市経営」特区 (千葉県柏市)	3.5	4.0 進捗度 ・各主体の参画による活動の活性化 104% ・新ビジネス創造と地域経済の活性化 102% ・AEMSを活用した環境配慮型都市の確立 178% ・先進的・包括的健康・介護サービス体制の構築 66% ・虚弱予防活動の展開 72%	3.3 規制の特例等 ・訪問リハビリテーション事業所整備推進事業 ・歯科衛生士等居宅療養管理指導推進事業等 地域独自の取組 ・事業推進に向けたプロジェクト連携会議の開催等	3.4	・口腔ケア年間実施件数が増加していることは評価できる。 ・まちづくり、環境保護、新ビジネス創造、包括的健康サービス提供と住民のニーズに合うプロジェクトが複数行われそれぞれ一定の成果が生まれていることは評価できるが、プロジェクト同士の連携が行われているかどうかは外からはみえない。 ・エリアマネジメントの取組みを先導する役割を果たしているとともに、公民学の連携やまちづくりと介護との融合といった総合性の着実な実施として評価できるが、データプラットフォームの活用(データ駆動型)のイメージがややわかりにくい面がある。 ・歯科衛生士の確保を問題点として掲げているが、対応策などについても検討いただきたい。 ・コロナ禍の中で活動の展開が難しかったことが窺われる。「トータルヘルスケアステーション」の詳細や意義がわかりにくく、今後詳細を明らかにしたうえで具体的な評価指標を作成する方が良いように思われる。 ・ベンチャー企業の支援件数は高い進捗が得られているが、可能な範囲でその支援内容・結果についての情報共有があれば有用である。(件数のみでは評価が困難な場合がある) ・フレイル予防については、具体的な内容の明示が必要。 ・ライフイノベーション分野の評価指標(4)、(5)の事業については、各数値目標で目標値を下回って進捗しており、また前年度に比べても減少している。定性的評価でも着実な進捗がうかがえない。新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったことは否めないが、課題改善に向けた取組が必要である。 ・「地域の健康・介護」分野の目標達成に向けた実施スケジュール(評価書3④、p.9)は、今年度の実績を踏まえ修正する必要がある。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(10/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区(大阪府、泉佐野市)	2.5	2.0 進捗度 ・国際医療交流の推進 40% ・訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進 18%	2.5 規制の特例等 ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 等 地域独自の取組 ・国際医療交流の拠点づくり促進補助金 ・宿泊施設設置奨励金 等	2.8	<p>・コロナ禍の中で、国内に居住する外国人に対する日本語医療通訳サポートは重要だと考えられる。遠隔技術などを活用しながら積極的に活動を行っている点は評価できる。</p> <p>・コロナ禍の問題が継続するなかで、入国規制等の制約から展望を見出せない状況にある。Web対応や医療機器の輸出などの対応を試みている点は評価したい。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大、新型コロナウイルスに関する水際対策の強化が本事業の目標達成に甚大な影響を与えたことは否めない。これまでの評価で指摘された点を踏まえ、新計画の目標の実現に期待したい。</p> <p>・医療分野の発展を目指しているが、外国人向けなのか、それとも、新規医療技術の進歩(計画書には「高度がん医療拠点施設の整備」と記載あり)を目指しているのか、基本軸がいまひとつ不明瞭な側面がある(国際交流に絞っているように見えるが)。</p> <p>・全般的な達成度の低さを考えると、関西国際空港が至近距離であることが国際医療交流の拠点になり得るという出発点そのものの見積りに甘さは無かったのか疑問が残される。</p> <p>・通訳の養成については、本事業での育成には無理があると思われ、既存団体(通訳団体など)との共同が効率的で、外国人の増減にも対応しやすいと思われる。</p>